

### 第3回

1

#### 花里孝幸「生態系は誰のため？」からの出題

日本の川や湖に放流された魚類が在来の生態系に影響を与えることを問題視した文章です。

ブラックバスなどの外来種は密放流によって広まりましたが、これらは魚を食べる魚であったため、生態系に大きな影響を与えたといわれています。

しかし、漁業関係者が行ってきたワカサギやアユの放流も人為的に生態系に影響を与えた点では同じだと述べます。

ブラックバスなどの魚を食べる魚だけが問題視されるのは、生物種を差別することであり、食物連鎖が生態系を支えていることを軽視している、と述べている文章です。

#### 問一

ブラックバスの放流によって何が起きたのかを問う問題です。22行目までの内容から答えることになります。ここで問題になっているのは「一部の人」による「密放流」が行われたことと、それが「漁業に大きな影響を与えたこと」です。

アは、密放流のことは述べられていますが、漁業への影響については述べられていません。

イは、内容は正しいですが、ここでは「侵略的外来種」というレッテルが貼られたこと自体が問題の核心なのではありません。

ウも、密放流の説明はありますが、漁業への影響という点の説明は不足しています。

エは、「密放流」「漁業への影響」の2点が述べられており、これが正解です。

#### 問二

ワカサギが全国に分布している理由を説明する問題です。記述式ですが、その末尾を指定していますので、これもヒントになります。ワカサギについて述べられているのは26行目から50行目までですが、全国に分布した理由についてはその中の26行目から36行目に書かれています。これを指定字数内で要約する問題になります。

結局、「ワカサギはもともと海跡湖だけに棲んでいた。」、「淡水湖にも棲めることが分かった」、よって「漁業関係者によって放流された」の3点をまとめることになります。

#### 問三

「生態系を攪乱します」を具体的に述べている部分を探す問題です。「生態系」も「攪乱」も言葉としては受験生には難解と考えられます。ただ、文章は言いかえをしながら論述することが常であり、ここでは言い換えられた部分を探すことになります。文脈を踏ま

えた読解力を試す問題です。

この部分ではワカサギの放流が生態系を攪乱すると述べられています。これを詳しく言い換えた表現を探すと49行目に「すなわち、その湖でワカサギの個体数が変化すると、動物プランクトン群集が大きく変わり、その影響が生態系全体に及ぶのです」とあるのが、それに当たります。なお、設問には「一文を探し、…抜き出さない」とあるので、一文の抜き出しをする必要があります。

#### 問四

「大きな違い」の内容を答える問題です。直前に「両者の間」とありますが、この「両者」とはワカサギやアユを放流した「漁業関係者の行為」と「ブラックバスを放流した人の行為」のことをさします。その違いは放流が秘密裏に行われたのか、公然と行われたのかの差ということであるといえます。

よって61行目の「ブラックバスの放流は秘密裏に行われたのに対し、ワカサギやアユは漁業権を得た漁業者によって、公然と放流されてきたという事」がそれに当たります。

#### 問五

ワカサギ・アユとブラックバスとの食性の違いを説明する問題。食性とは何を食べるのかということです。9行目に「稚魚や魚卵を食べる」とあり、74行目には「ブラックバスが魚を餌とする」とあり、76行目には「ワカサギやアユが餌とするミジンコや水生昆虫、付着藻類」とあります。これらを利用して答えます。

本文では「餌」が旧字体で表記されていますが、この解説では現在の字体で表記しています。採点にあたっては、どちらの漢字を使用しても正解と扱います。

#### 問六

「多くの人が生態系を理解していない」現状は何が原因なのかを理解した上で、何をすべきなのかを答える問題です。解答の形が「認識すべきである」で終ることが指定されているので、認識すべきことは何かを答えるになります。

筆者は、71行目にあるように「多くの人たちは、水域に棲む動物は魚だけと考えている」という誤解があると考えています。しかし、その実態は魚が餌にするミジンコや水生昆虫、付着藻類などが、魚の命を支える「極めて重要な役割を果たしている」という事実です。つまり、生態系を考える際には魚だけではなく、その餌になる生物すべてを考慮する必要があると述べられていることとなりますので、この点をまとめます。

#### 問七

漢字の書き取り。楷書で丁寧に書くことを求めます。

#### 問八

本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

アは、ブラックバスやブルーギルが侵略的外来種と呼ばれ駆除の対象となっている原因は、在来の魚群集に大きな影響を与えているからです。密放流という点は合致しますが、駆除の原因は別です。

イは、54～55行目にアユは付着藻類を主な餌としますが、それによって川の生態系を攪乱するとあるので合致します。漁業関係者による放流の記述も文中に書かれています。

ウは、ワカサギ・アユが駆除の対象とは述べられておらず、明らかな間違いです。

エは、放流により「豊かで多様な生態系が実現することになり」とあるのが、文の論旨から大きく外れています。

#### 2

#### 氷室冨子「いもうと物語」からの出題。

主人公小学生のチヅルにとって、自分のよき理解者と考えていた「おねえちゃん」の歌子に多忙のためかまってもらえないことから、嘆き煩悶する幼い妹像が描かれている場面です。回想の場面も含まれており、登場人物の心情の場面ごとの変化を読み取らせることを目的に出題しました。

#### 問一

姉の歌子の行動に対し、両親がどのように考えたのかを問う問題です。

歌子の小学校の卒業式で答辞を読んだことについては直接述べられてはいませんが、「とおなじ態度だった」と続いており、その態度については10行目の、「オトーサン」の「そういうのは、一年生が出ていいのかい」や、母、清子の「一年生のうちからあんまり目立つことすると、まずいんじゃないの」という発言と、そう言いながらも13行目の「顔はすっかり、にこにこ笑っている」という表現から、不安と喜びという形でまとめます。

#### 問二

チヅルが「なんとなく、おもしろくない気分」になった理由を考える問題です。

お姉ちゃんに甘えたく、興味を引こうとあれこれ画策しても一向にかまってくれないことが、面白くないのだと考えられます。

#### 問三

歌子が母に怒られたチヅルに対してアドバイスをしている部分です。

アは、チヅルが興奮していたというのがまちがいです。97行目にすでにこの時点でぐったりしていた、とあります。

イは、お母さんはこの時点で、93行目に縄を「ほどいていい」と言っていたとありますので、「相当な覚悟と努力が必要」という部分がふさわしくありません。

ウは、姉の歌子は妹にどうしたら母の怒りが解け、謝ることができるのかを伝えようとしています。よってこれが正解です。

エは、お母さんはチヅルをすっかり許していたというのがおかしく、まだ赦していないからこそ、姉は母に謝ることを勧めているわけです。

#### 問四

慣用句の意味を説明する問題。機嫌の悪さを説明すれば正解です。

#### 問五

設問をよく読んでから答えることが求められる問題です。チヅルの気分が鎮まった理由としては「姉の手のひらの感触の気持ちよさ」、すなわち物理的な作用と、104行目の「姉が自分『味方』だと言ってくれたこと」、すなわち思いやりを示してくれたことによる、精神的な作用とがあります。ここは後者が求められていますので、その内容を指定字数内でまとめることになります。

#### 問六

「息」に関する慣用句の問題でした。

#### 問七

副詞を補充する問題です。

Aは、チヅルを制してセンベイをとりあげ、そのまま二階に上がっていく歌子の様子の形容ですので「さっさと」が入ります。

Bは、チヅルを注意しながらも、これから自分がやるべきことの方に意識が向かっている歌子の、ものごとを手短に済まそうとしている様子を形容する部分なので「きびきびと」が入ります。

Cは、姉の行動を理解できずにいる圧倒されたチヅルの様子をいう「ぼかんと」

Dは、箱に入っているモナカの形容で「ぎっしりと」が入ります。

#### 問八

内容に合うものを選ぶ問題です。

アは、「選挙に対して熱心になりすぎる姉を見て疑問を感じ」以下が誤りです。チヅルには姉の状況を客観的に批判する余裕がなく、ただ自分がかまってもらえないことに焦りを感じているのです。

イは、「歌子がチヅルの自立を考えた」とあるのが誤りです。歌子は自分の選挙のこと

に熱心なあまりチズルのことを考える余裕をなくしているのです。

ウは、「これまでの温かい気持ちが偽りであった」が間違いです。過去の歌子の優しさを回想する記述はありますが、それを偽りの気持ちであったとは述べられていません。

エは、歌子の立場で、この物語の内容をまとめたものであり、これが正解です。